

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：31502

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00525

研究課題名（和文）中国語圏における俳句の受容と実践に関する比較文学的研究

研究課題名（英文）A Research on the Acceptance and Practice of Haiku in Chinese-Speaking Countries from Comparative Literature Perspective

研究代表者

呉 衛峰（WU, Weifeng）

東北公益文科大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：90458159

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は期間中、国際ラウンドテーブル「華文俳句の可能性」と、オンライン国際シンポジウム「中国語圏における俳句の受容」という二回のシンポジウムを開催した。論文・研究ノート・学会発表等の成果として、まず、中国語圏における俳句の翻訳を考察し、現代語訳と漢詩体訳の相違と意義を論証した。そして初期の中国語圏の俳句に関する新しい資料を発見し、分析を試みた。中国語現代詩における俳句の影響については、一九九〇年代における台湾の俳句ブームを中心に、その前後の中国語現代詩における俳句の影響を考察し、中国語俳句詩・截句などの現代短詩型を俳句の影響による結実という結論に至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は現代中国語の口語による翻訳が漢文調のものより優れている事を証明した。それは俳句の魅力をより正確に伝えることができ、より多くの読者を獲得することになることを意味する。また、漢詩調の漢俳が優位を占めている中国本土と比べ、台湾における現代詩人による現代中国語俳句およびそれに影響を受けて成立した短詩型は、俳句が中国語現代詩の短詩型の発展の起爆剤となったことを論証した。中国語二行俳句の実践もその一例である。よって、本研究は中国語圏における俳句の受容と実践の考察を通して、俳句美学の普遍性を確認したのである。

研究成果の概要（英文）：During the research period, we held two international symposiums. The first one is 'Roundtable: The Possibility of Chinese Haiku' (at Kumamoto University), and the second one is 'Online International Symposium: The Acceptance of Haiku in Chinese-speaking Countries'. Our research achievements are as the following. First, we examined the Chinese translations of haiku from the viewpoints of translating positions and the role of styles in translation. It is notable that we found and inquired into several new materials of the first two Chinese haiku writers, Luo Sushanren and Ge Zulan. Secondly, regarding the influence of haiku on modern Chinese poetry, we mainly researched Chinese poetry of Taiwan, focusing on the period before and after of the 1990s 'Haiku Boom, and concluded that the Chinese haiku and other short verse styles like Jieju after the 1990s' are under the influence of haiku, directly or indirectly.

研究分野：比較文学

キーワード：俳句 ハイク 中国語現代詩 台湾 季語 翻訳 華文俳句 モダニズム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 中国本土では、漢詩調定型の漢俳の成立は日中友好という政治文化的なものであった。台湾では、四十年間の戒厳令のもとでは、日本文学の紹介が厳しく制限されていた。その反発で、1987年の戒厳令解禁が1990年代の俳句ブームにつながった。

(2) 1920年前後、周作人等によって俳句が紹介され、1980年以降、漢詩調の翻訳も多くなったが、中国語圏では本格的な俳句研究はまだ少ない。

(3) 台湾の俳句ブームで詩人陳黎が「現代俳句」と冠して現代短詩集を上梓した一方、俳句の影響で生まれた中国本土の短詩型「截句」が台湾に伝わり、台湾では截句ブームが起こり現在に至る。

(4) 研究代表者は華文二行俳句コンテストに最初から携わっており、華文二行俳句の理念および具体的創作方法を理論的に説明すべく、中国日本文学研究会2018年度例会(内蒙古大学)で招待講演を行った。

2. 研究の目的

(1) 中国語圏における俳句受容および実践の歴史と現状を考察し、俳句美学の核心的部分がどのようにとらえられてきたかを究明する。

(2) 漢俳を当然の基準とする中国語俳句という立場から離れ、現代中国語口語体による華文二行俳句などの中国語俳句の可能性を考察する。

(3) 陳黎の「現代俳句」および近年の「截句」を考察し、中国語現代短詩型における日本俳句の直接的影響および国際ハイクの間接的影響を分析する。

(4) 中国と台湾の一流詩人をインタビューし、その後シンポジウムを開催して、俳句文学の特質に対する詩人たちの認識を確認する予定であった。

3. 研究の方法

(1) 本研究は比較文学の方法により中国語圏における俳句の受容と実践を考察するものである。理論的には川本皓嗣『日本詩歌の伝統 七と五の詩学』および星野恒彦『俳句とハイクの世界』において提示された俳句の本質論および国際ハイクの在り方をベースに進められたものである。

(2) 本研究申請時の計画は国際シンポジウム・中国語圏詩人へのインタビュー・中国語圏俳句関連資料の調査を通じて研究を展開する予定であったが、コロナ禍のために、シンポジウムは2019年11月(熊本大学)および2020年3月のオンライン国際シンポジウムのみになり、詩人へのインタビューは実現できなかった。

(3) 台湾および中国本土などの中国語圏地域で資料調査する予定であったが、結果的に現地の協力者に資料調査を頼む形で資料を収集した。一方、コロナ禍の対応策として様々なネット上の研究資源が公開され、それも本研究の重要な資料収集の手法となっていた。

4. 研究成果

(1) 本研究は期間中、二回のシンポジウムを開催した。令和元年の国際ラウンドテーブル「華文俳句の可能性」(熊本大学)では、台湾で実践した現代中国語による華文二行俳句の可能性と意義を検証した。参加者は本研究の構成メンバーのほか、日本俳人協会熊本支部長の永田満徳や、俳句雑誌「俳句界」(文学の森)の編集長など、日本俳句界の関係者などであった。

(2) 令和二年のオンライン国際シンポジウム「中国語圏における俳句の受容」では、日本と中国からの研究者は中国における俳句の受容史および翻訳論について論考を発表した。内容は西槇は「蘇山人の俳句を読む」と題して、田建国(上海杉達学院教授)は「漢俳について」と題して、呉は「1990年代以降の中国語圏における俳句の受容」と題して、金中(西安交通大学教授)は「一語一句」の形式による俳句の中国語訳」と題して、木村聡雄(日本大学教授)は「欧米俳句の歴史と特徴」と題して、井上(モデレーター)は「俳句研究と翻訳研究」と題して、パネリスト発表した。

(3) 論文・研究ノート・学会発表等の成果として、まず、中国語圏における芭蕉以降の俳句の翻訳を訳者(周作人、葛祖蘭、林林、鄭清茂、陳黎)や文体などの面から詳細に考察し、現代語訳

と漢詩体訳の相違と意義を論証した。そして羅蘇山人と葛祖蘭という初期の中国語圏の俳人に関する新しい資料を発見し、分析を試みた。さらに、中国語現代詩における俳句の影響については、台湾を中心に研究を進め、1990年代における俳句ブームを中心に、その前後の中国語現代詩における俳句の影響を考察し、中国語俳句・三行詩・截句などの現代短詩型を俳句の影響による結実という結論に至った。

(4) 中国語俳句の実践としては、現代中国語による華文二行俳句の可能性を論文と学会発表で論証し、台湾の研究協力者は句集を出版し、中国語俳句の歳時記を編纂した。コロナ禍のため詩人のインタビューを実施できなかったが、当初の計画はほぼ達成されたと言えよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 呉衛峰	4. 巻 41
2. 論文標題 中国語圏における俳句の影響について 俳句の中国語訳を中心に（その四）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北公益文科大学総合研究論集	6. 最初と最後の頁 (1)-(13)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 呉衛峰	4. 巻 42
2. 論文標題 台湾現代詩における俳句の影響について 一九九〇年代前半の中国語俳句ブームを中心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東北公益文科大学総合研究論集	6. 最初と最後の頁 (1)-(20)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 井上健	4. 巻 64巻8号
2. 論文標題 「荒地」派詩人たちのアメリカ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代詩手帖	6. 最初と最後の頁 64-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井上健	4. 巻 107
2. 論文標題 ハードボイルド文学と1950年代日本 男の声の翻訳とその反転の可能性をめぐって（下）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 比較文学研究	6. 最初と最後の頁 91-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西極偉	4. 巻 3
2. 論文標題 『草枕』の中国語翻訳史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『人文科学論叢』第3号、熊本大学大学院人文社会科学研究所（文学系）発行	6. 最初と最後の頁 170-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉衛峰	4. 巻 38
2. 論文標題 中国語圏における俳句の影響について 俳句の中国語訳を中心に（その一）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東北公益文科大学総合研究論集	6. 最初と最後の頁 (1)-(13)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 呉衛峰	4. 巻 39
2. 論文標題 中国語圏における俳句の影響について 俳句の中国語訳を中心に（その三）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北公益文科大学総合研究論集	6. 最初と最後の頁 (19)-(38)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上健	4. 巻 106
2. 論文標題 ハードボイルド文学と1950年代日本 男の声の翻訳とその反転の可能性をめぐって（上）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較文学研究	6. 最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西横偉	4. 巻 106
2. 論文標題 書評『中国芸術というユートピア ロンドン国際展からアメリカの林語堂へ』範麗雅著	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較文學研究	6. 最初と最後の頁 163-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上健	4. 巻 4
2. 論文標題 翻訳家清水俊二の戦前と戦後 映画字幕と翻訳の間で	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『英語教育研究所紀要』(大妻女子大学英語教育研究所)	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 呉衛峰	4. 巻 36
2. 論文標題 『華文俳句選』 - - 瞬間を詠む中国短詩型の実験	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北公益文科大学総合研究論集	6. 最初と最後の頁 (1)-(4)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 呉衛峰	4. 巻 37号別冊
2. 論文標題 中国語圏における俳句の影響について 俳句の中国語翻訳を中心に(その一)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東北公益文科大学総合研究論集	6. 最初と最後の頁 (1)-(11)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 呉衛峰	4. 巻 284
2. 論文標題 特別レポート：ラウンドテーブル「華文俳句の可能性」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 俳句界	6. 最初と最後の頁 112-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上健	4. 巻 1
2. 論文標題 イギリス文学、アイルランド文学、アメリカ文学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平川祐弘編『森鷗外事典』（新曜社、2020年1月）	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 呉衛峰
2. 発表標題 中国語圏短詩型における俳句の影響について 1990年代以降を中心に
3. 学会等名 日本比較文学会東京支部例会、5月15日、オンライン
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉衛峰
2. 発表標題 日本俳句及其在中国的紹介
3. 学会等名 中国山東青年政治学院外国語学院、12月17日、オンライン（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上健
2. 発表標題 文化翻訳の可能性を開くー雑種文化論と三角測量のすすめ
3. 学会等名 2020年度「イオン杯」日本語スピーチコンテスト優勝者訪日研修講演、2021年5月15日、オンライン開催（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上健
2. 発表標題 漱石研究から谷崎研究へ 日本モダニティ変容と比較文学研究の方法」、シンポジウム「比較文学研究の拡張と刷新 松村昌家先生追悼記念シンポジウム
3. 学会等名 日本比較文学会関西支部2021年9月例会、2021年9月24日、オンライン開催
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上健
2. 発表標題 基調講演「『荒地』詩人たちのアメリカ 文化翻訳者としての戦後日本詩人たち」
3. 学会等名 2021年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム、2021年11月11日、オンライン開催（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西槇偉
2. 発表標題 中国における『草枕』の翻訳受容 海賊版と剽窃訳をめぐる
3. 学会等名 熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター 第3回研究フォーラム、2021年9月19日、くすの木会館レセプションルーム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉衛峰
2. 発表標題 日本俳句浅談
3. 学会等名 山東師範大学社会科学大講壇（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 呉衛峰
2. 発表標題 1990年以降の中国語圏における俳句の受容
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「中国語圏における俳句の受容」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上健
2. 発表標題 『幻想文学』と近現代日本文学 「私」「自己」のテーマ群とその翻訳可能性をめぐって
3. 学会等名 2020年度日本語教育と日本文学研究国際シンポジウム（中国教育部高等学校教学指導委員会日本語分委員会・中国日語教学研究会上海分会＝主催）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井上健
2. 発表標題 俳句研究と翻訳研究
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「中国語圏における俳句の受容」（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上健
2. 発表標題 「文芸翻訳家誕生・発掘の現場」パネリスト
3. 学会等名 第4回JLPP翻訳コンクール記念シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西槇偉
2. 発表標題 蘇山人の俳句を読む
3. 学会等名 オンライン国際シンポジウム「中国語圏における俳句の受容」(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上健
2. 発表標題 ハードボイルド文学と冷戦期日本 文体と叙法の翻訳可能性を中心に
3. 学会等名 日本語教育と日本学国際シンポジウム(中国日本語教学研究会上海分会)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉衛峰
2. 発表標題 詩人陳黎的華文俳句及日本俳句翻訳
3. 学会等名 中国日本文学研究会創立40周年記念国際シンポジウム(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西槇偉
2. 発表標題 森鷗外の文学と植民地
3. 学会等名 第9届文学倫理学批評国際學術研討会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 呉衛峰
2. 発表標題 華文二行俳句とは何か
3. 学会等名 ラウンドテーブル「華文俳句の可能性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西槇偉
2. 発表標題 『華文俳句選』を読む
3. 学会等名 ラウンドテーブル「華文俳句の可能性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 洪郁芬
2. 発表標題 華文俳句社における華文二行俳句の実践
3. 学会等名 ラウンドテーブル「華文俳句の可能性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 井上健
2. 発表標題 作家が翻訳を試みる時 谷崎潤一郎、芥川龍之介、山本有三
3. 学会等名 三鷹市山本有三記念館・三鷹ネットワーク大学共催講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 洪郁芬（共編）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 台北、釀出版	5. 総ページ数 228
3. 書名 歳時記	

1. 著者名 洪郁芬	4. 発行年 2019年
2. 出版社 釀出版（台北）	5. 総ページ数 151
3. 書名 華文俳句集 渺光之律	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 健 (INOUE Ken) (30121867)	日本大学・国際関係学部・研究員 (32665)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	西横 偉 (NISHIMAKI Isamu) (50305512)	熊本大学・大学院人文科学研究部(文)・教授 (17401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 オンライン国際シンポジウム 第1回「中国語圏における俳句の受容」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 ラウンドテーブル「華文俳句の可能性」	開催年 2019年～2019年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関